

2022 年秋学期語学留学 リンカーン大学 帰国生アンケート

※注意※ ここで紹介されているアンケート回答は**全て個人の主観によるもの**であり、あくまで『参考情報』としてみなさんに開示しています。**正しい情報とは限りません**ので、その点について了承した上で留学準備に活用してください。

1. 授業について

授業の形態や進め方はどんなものでしたか。

授業の種類は、reading、writing、listening & speaking、report skill の4つで、主に授業内で実際に問題を解いたり、主体的なものが多かったです。

授業4週間と休暇1週間の5週間一区切り(モジュール制)、一コマ50分、一週間ごとに全ての教科共通のテーマがある、教科ごとに担当教員がいる、ほとんど毎授業でグループワークを行った、座席自由

授業は基本的に話を聞くタイプの授業と、参加型の授業の二つです。元の授業は毎回、新しい学生に対する説明を毎回する感じです。

クラスは2つに分かれており、それぞれの学力にあったクラスに分けられました。授業は writing, reading, speaking & listening, research skill がありました。初めは先生の言っていることを聞き取るので精一杯でした。また理解できないときももちろんありましたが、わからないということをしっかり伝えるとわかりやすく説明してくれます。そのおかげで、時間はかかりましたがしっかりひとつずつ理解しながら授業を進めることができました。学生が一方的に先生の講義を聞くのではなく、学生もしっかり発言できるような環境でした。

modules8-10 までを受けました。各回の module が終わるころにはこれまでの授業で学んだことを試すライティングとリーディングのテストがあり、そのテストの結果で次のクラスが変わる形式でした。RS(researching skills)という授業では芸術や世界の河川や湖をテーマに取り上げ、compare と contrast な点について記述しました。550 文字以上はライティングしました。この授業が 1 番大変で Research する力も試されたました。調査内容も少し複雑であったりするのでそれについて先生に質問するのもいい勉強になりました。

集団授業でゆっくりと進めていった。

授業は50分間でリーディング、ライティング、スピーキング、リサーチアンドスキルの4つがありました。月曜日と火曜日は9時からの1限から15時までの5限まであり、水曜日から金曜日までは1から3限までで午前中で終わりました。スピーキングの授業は前で発表したり、席が近くの人と出されたお題について話し合うということが多かったです。リーディングの授業では長い文章を読んで要約したり、完成されている文章を読んで間違いを探したりということをしていました。どの授業も隣の席の人とペアで話し合いながら進めることが多かったです。

先生や科目によって違うが、ほとんどの授業でパソコンを利用した。授業毎にポイントを教わってから、練習してそのポイントを生かし、レポートやテストに活用できるようにする授業が多かった。

基本的にライティング、リスニング、スピーキング、リーディングの4つに分かれていて、パソコンが必須になっていました。

クラス人数、日本人と留学生比率、留学生の出身国などについて教えてください。

レベル別でクラスが2つに分かれており、私が受けていたクラス的人数は12人でした。ほとんどが関西外大からの日本人学生でした。留学生の出身地はタイ、フランス、中国、台湾でした。

留学生向けの英語学習クラスだったため留学生しかいなかった。はじめの一か月は外大生12人、タイ人2人、フランス人1人の15人だった。2モジュール目から名古屋大学の日本人2人、中国人2人、台湾人1人が増え、2クラスに分かれた。

コロナのせいでほとんど日本人留学生でした。フランスから1人、タイから3人、中国から6人、割合は日本人と海外の留学生で4:6くらいでした。

新型コロナウイルスの影響でまだまだ留学生が少なかったです。私たち外大生も含め、インターナショナルスチューデントは20人強でした。最終的にフランス人1人、タイ人3人、台湾人1人、中国人2人、インドネシア人1人、日本人16人でした。

外大生12人とタイ人2人、フランス人1人の15人で始めましたが、最終日には途中からきた日本人や中国人を含め20人弱は居ました。クラスは細かくレベル分けされて日本人のいないクラスに入ったりして英語しか共通言語がない教室になったりするのかと期待していましたがそれはありません

でした。(まだコロナ禍ということもあり留学生が少ないのではと考えます)2クラスしかありませんでしたし、必ず外大生がクラスメイトにいる状況だったのでやはり日本語は話してしまう環境にありました。語学学校の弱点はそこだと考えます。

8対2で日本人の方が多かった。タイ人、フランス人、中国人、台湾人

クラス人数は15人で比率は日本人:留学生=4:1、1人がフランスで2人がタイでした。10月11日頃に留学生が増えました。クラス人数は20人、比率は日本人:留学生=7:3、1人フランス、2人がタイ、3人中国からです。終盤に2人ほど増え、中国人1人とタイ人一人が加わりました。

クラスの人数は、一クラス約10人。日本人留学生と外国人留学生の比率は、7対3。外国人留学生の出身国は、中国からが多く、タイ、フランスからの留学生もいた。

クラスは10人でほとんど日本人で外国人は二人だけでした。中国人とタイ人です。

クラスの雰囲気はどんなものでしたか。

授業中に挙手などせず発言することが多かったです。また、時間に厳しくないため、長引いたり、始まるのが遅かったりしました。

学生同士や教員と学生同士のコミュニケーションが盛んであり、発言しやすい雰囲気だった。

混合の授業では賑やかでしたが、日本人のみの授業はすごく静かです。積極的に発言した方がいいです

まだ人数が少なかった分、全員が顔見知りだったので、すごく仲が良かったです。授業も集中しつつ、楽しくできました。どの授業にもグループワークをたくさん取り入れていたので、他の学生の多くの意見や考えを知ることができました。先生の話を一方向的に聞くのではなく、学生たちも発言する場が設けられるので、より授業に集中することができました。

外大生だけのクラスが月に2回ほどあったのですが、その授業はとても静かで積極的な学生はすごく目立つ印象でした。国際的なクラスになると主にタイ人の学生がクラスを盛り上げムードメーカーとなってきていました。授業もスムーズでしたし先生も楽しく授業を進めていました。日本人はやはり消極的だと反省し後半はみんな頑張って発言を進めたり質問をして授業をより充実させることができていたと思います。

和気藹々としていた。みんな発言していた。

他国からの留学生が少なかったこともあり、日本の授業と大幅に違いがあることはなかったです。人数が少ないのでみんな仲が良く、楽しい雰囲気成真面目に受けれていたと思います。ただ、関西外大生だけの授業では少し静かで暗い雰囲気を感じていました。ただ発言はやはり他国の留学生のほうが積極的にしていたと思います。思ったままにまるで1対1で会話しているようなテンポ間で発言をしていました。一方で日本人はやはり控えめだなと感じました。

授業は、先生の話を一方向的に聞くのではなく、よく質問されるので質問に答えないといけない。答えないことが続くと、沈黙が生まれることがあった。わからなければ、わからないと伝える必要がある。

自分で発言する機会が多くフラットな雰囲気居心地が非常に良かったです。

授業の中で取り上げられたトピックで印象に残っているものは何ですか。

毎週トピックが変わりましたが、その中で印象的なのは、健康についてです。現代社会のメンタルヘルスや食事などのフィジカルヘルスについてのエッセイを読みました。

兄弟姉妹構成が個人の能力や人格に与える影響について、ロシア伝統のファストフード、魚の苦痛を阿るために釣りを禁止にすべきか、インド式結婚の儀式

SDGs、プレゼンテーション

私が印象に残っているトピックは、近年世界中で寿命が延びているのはなぜなのか、またそれによって起こる問題とは何なのかを考えるというものです。実際に日本は平均寿命が世界で最も長く、高齢者が急激に増加しています。このトピックを取り上げられたことで、今後医療機関、介護施設・老人ホームの逼迫や労働者の負担が増えることなど色々な問題について考えることができました。

SDGsをテーマにニュージーランドの商品について分析、調査をし発表する授業をとても印象に残っています。持続可能な社会にするためには考えるべき点がたくさんあることに気付かされました。

アカデミックライティング 正しいエッセイやレポートの書き方を学べた。

SDGsについてです。SDGsについて数回の授業を通して学び、留学終盤にはグループに分かれて、パワーポイントを使って発表を行いました。ニュージーランドの商品を使ってどの点が環境に気を配っているのか、改善点はあるか、日本で売り込むとしたらどうするかを考えました。学んだことを頭に入れながら、リサーチアンドスキルの授業で身に着けた、リサーチ力を生かしてメンバーと話し合いながら進めることができました。

スピーキングの授業で2分間指定されたテーマについて話す授業です

授業を受けるにあたって工夫していたこと、努力していたことはなんですか。

積極的に発言し、英語を話す機会を作りました。

日本人同士でも教室内では英語で会話するよう心掛けていた。仲の良い者同士で固まらないようにしていた。

積極的に発言することです

授業では積極的に発言をするようにしていました。最初は大人数の前で大きな声を出して発言することが恥ずかしかったです。間違った単語や発音を使って伝わらなかったらどうしようという気持ちがありました。しかし、たとえ下手な英語でも一生懸命伝えようとすると、先生も友達も理解してくれようとしてくれます。だから失敗を恐れず、発言するように心がけていました。

最初の頃は日本にいる時と同じような受け方をしてしまい、成績も普通でこれでは留学した意味がないと思い、module9からは積極的に放課後先生に質問しに行き、授業終わりに質問し課題に詰んだらアドバイスを求めにいく、というようにしました。自分1人で完成出来る課題ももう一つレベルアップした完成度になることを意識して取り組んでいました。こうしていると先生たちに自然と学びの意欲をアピールでき、最終的な module の成績では merit を頂けました。(三段階成績にはあり、pass がレギュラーな成績で excellent が完璧！のレベルです。その間が merit になります。)

復習を頑張った。

リスニングがすごく苦手だったので、先生の話を理解できるように一語一語真剣に聞いていました。自分が聞き取った内容が合っているか友達に確認してもらっていました。単語を調べる際には、英和辞典を使うのではなく、Oxfordを使うように意識していました。

質問をされたら、できるだけ速く答えるようにした。また、自分や友達と解決できない問題があるときも、すぐに聞くようにした。

自習時間を毎日するようになっていました。

2. 滞在先・自由時間の過ごし方について

ルームメイトはいましたか。	ルームメイトはどこの国の人でしたか。	通学手段	通学時間
0人		バス	15-30分
2人	到着直後の2週間は日本人一人、2か月目頃の1週間に40代の中国人がシェアメイトだった。	バス	30-45分
0人		バス	0-15分
0人		バス	45-60分
	途中から中国人の38歳の男性とともにホームステイしていました。会社の研究をするために来たとおっしゃっていました。	バス	15-30分
1人	台湾	徒歩	15-30分
1人	中国人	バス	15-30分
0人		バス	0-15分

部屋に用意してあったものは何ですか。	自分で用意したものは何ですか。
ベッド、机、いす	生活用品
ベッド、サイドチェスト、クローゼット、ハンガー、デスクライト、机、棚、ゴミ箱、ランドリーバッグ	衣類、化粧品、ガジェット類、靴類、文房具、生理用品
バスタオル、ハンガー	洗面具、日本食、お土産、充電器
ベッド、勉強机、クローゼット、たんす、ドライヤーがありました。	シャンプー、ボディーソープなどのシャワーセット、歯磨き粉、充電器など準備しました。
勉強机、ティッシュ、洋服筆筒、ベッド、ソファ、照明	ゴミ袋(意外と友人のホームステイ先でも用意されていないことが多かったです)
机、ベッド、布団、卓上ライト	ハンガー、ティッシュ、風呂用品一式
ベッド、勉強机、テーブル、鏡、タンス、クローゼット、ベッドサイドテーブル、ヒーター、ドライヤー、扇風機、ハンガー、コースター、箱ティッシュ	シャンプー、ボディーソープ、くし、洗顔ソープ、泡立てネット、化粧水、乳液、その他保湿するもの、タオル、衣類、薬、変換プラグ、充電器、
ベッド	服、水着、マスク、洗面用具、ホームステイ先へのお土産
ベッド、机、椅子、タンス	ハンガー、歯ブラシ、化粧水

ホームステイ生活をする上で、日本と違って戸惑ったこと、驚いたこと。

節水を重要視しているニュージーランドではシャワーを10分で終わらせなければなりません。

早寝、裸足で外に出る

土足であったこと、就寝時間がすごく早いことです(基本的に20時には就寝されます)。早いところでは18時とかです。

戸惑ったことは特にありませんでした。ただお風呂に入る際、日本のように毎日バスタブに入る習慣はありません。私が行ったホームステイ先にはバスタブはありましたが一度も使いませんでした。

フードロスの場面が多いと個人的に感じました。食べられないと決まったらすぐゴミ箱に入れられたり、食べられるのにもう誰も食べないからとゴミ箱いきでした。日本にいる時より平気でご飯を捨てるが多かったです。それにはびっくりしました。

シャワーの時間制限、洗濯の制限

でかい浴槽があるにもかかわらず全く使わず、シャワーのみの利用していいとのことでした。全面ガラス張りの一人が立つだけの広さのシャワースペースでした。10分だけといわれたので、最初は焦っていましたが、だんだん慣れていきました。食事に関しては、他の家庭がどうなのかはわかりませんが、パスタがでるときにフォークと一緒にスプーンではなくナイフが出てきたので驚きました。また、弁当にフルーツがカットされずに丸々一個出てくるので最初は戸惑いました。

ホームステイ先によって違うが、私のホームステイ先にはドライヤーがなかったので少し困った。

ソファでの食事が多く、食事のマナーがほとんどないことです。

ホームステイを快適に過ごすためのアドバイスをお願いします。

要望を恥じずにしっかり伝えること

自分のコミュニケーション能力ややる気、タイミングの悪さのせいで同居人と会話ができなくても、他の人が受けている待遇と差があっても、問題なく生活できているだけで御の字と思ひましょう。会話中に英語語を検索することは気が引けるしカッコ悪いけど、生活に関係する伝えたいことが伝わらないほうが相手も迷惑なので、遠慮せずスマホ片手に会話しましょう。

ホームステイ先でのルールは必ず守った方がいいです！当たり前ですが、礼儀正しい学生だと思っていただくためにも、親しくしていただくためにも、礼儀正しくした方がいいです！

Yes/Noをはっきり言うこと。曖昧な返事をするとう相手に伝わらないので自分の意志をしっかり伝える必要があります。特に、外国では日本のように空

気を読むということがないので、なおさら大事になってきます。

ファミリーは私たちのことを大人として扱い、何をしようとか良くも悪くも干渉してきません。なので、ある意味好き放題ですが積極的にファミリーと交流を持つこと、興味関心のあることを見つけたらすぐにやることをお勧めします。しかし、毎週末どこかに出かけたりしていると疲れるのでこれはお勧めしません。留学中にしかできないことはしておくべきですがイベント続きも疲れます。勉強ももちろんしなければならぬのでメリハリのついた過ごし方を指すと良いと思います。

ルールを守って気楽に生活する

あまり神経質にならないことと、日本での生活と似せれるところはなるべく寄せるようにするべきです。女の子であれば、美容系は持って行ったほうが良いと思います。現地で買うのは高いです。ニュージーランドでは、最初の1か月は特にすごく乾燥していたので、肌が荒れやすく、私も含め困っている子が何人かいました。

ホストファミリーと仲良く過ごすこと。

自分の部屋にいる時間とリビングにいる時間の配分を考えて生活することです。

パソコンは持参しましたか。	携帯電話	インターネットは部屋から接続可能でしたか。	その際に費用はかかりましたか。
はい	日本から SIM カードを持参	ワイヤレスで可能	いいえ
はい	留学先で SIM カードを購入	ワイヤレスで可能	いいえ
はい	留学先で SIM カードを購入	ワイヤレスで可能	いいえ
はい	日本から SIM カードを持参	ワイヤレスで可能	いいえ
はい	日本から SIM カードを持参	LAN ケーブルで可能	いいえ
はい	留学先で SIM カードを購入	ワイヤレスで可能	いいえ
はい	日本から SIM カードを持参	ワイヤレスで可能	いいえ
はい	留学先で SIM カードを購入	ワイヤレスで可能	はい
はい	留学先で SIM カードを購入	LAN ケーブルで可能	いいえ

大学主催のプログラム/イベント/ボランティア/サークルなど。	学内/学校近辺でよく利用した施設やお店など
しばしばフリーフードが催され、ピザやクッキーが配布されていた。	Grounded(学内)、近所のスーパーマーケット、リンカーンの街
ガーデンパーティーや、LGBTQ +のイベントに参加しました。	ジムに行って体を動かしました！あとは大学内に住む留学生の家でパーティーをしたり、ドライブに連れて行ってもらいました
LUSA といってリンカーン大学の学生会的な組織がさまざまなイベントを主催していました。インターナショナルスチューデントディナー会に参加しクラス外の友達を作ろうとしましたが、インド人や中国人のファミリーばかりが集まっていて同年代の学生がゼロでびっくりしたこともありましたがルーサーが主催するイベントはフリーフードなども多く楽しかったです。	家から歩いて 20 分ほどのところにあるショッピングモールによく行っていました。アジアスーパーもありました。本屋、スタバ、洋服店も入っており休日はそこに行って勉強したりしていました。都市近くのショッピングモールには映画を見に行ったりお土産を買いによく利用していました。
インターナショナルスチューデントパーティー	カフェ、ジム、現地の友達の家
	学内のジム、近くのスーパー、学内のカフェテリアはよく利用しました。

3. 留学前準備について

留学前に取り組んだ準備
とにかく忘れ物が無いようにと日ごろ使っているものなど入念にチェックしパッキングしました。
交通手段や行きたい場所、観光地をインターネットで検索。会話フレーズを勉強
単語の勉強
参考書を開いて文法の勉強をしたり、単語帳を読んで少しでも多くの単語を覚えるようにしていました。
英語学習、ニュージーランド文化、ホームステイ先で気をつけることについてネットで調べていました。
バスの料金やエリア、乗り方など調べました。日常生活に関する現地の常識に関することはある程度調べていました。また、行きたいところをリストアップしたりもしていました。
留学先の気候や文化について調べた。

留学前にしておけばよかったと思う準備
スピーキング、リスニング、海外の人と話す練習です。海外の人と話す雰囲気は全く違うので、慣れておくだけで全然違います。
ホストファミリーや学校の先生から日本のことを聞かれたときに答えられない場面がありました。英語で伝えることが難しいということはもちろん、何よりも自分自身が日本のことについてよくわかっていない部分があることに気づきました。何か質問された際にしっかり説明できるよう、事前に勉強しておくべきでした。
もっと気温について調べて、持っていく服をあたたかいものにするべきだったと思います。想像以上に現地は寒かったです。雪が降ったときもありました。

日本から持って行って役に立ったもの、または喜ばれたもの
味噌汁は飲みたくなるので必須です。また、空気が乾燥していたり日差しが強いため、保湿剤や日焼け止めクリーム、サングラスを持って行った方がいいです。
バスケースや適当なポーチや巾着：現地で手に入らないので多めに持って行った方がいい/生理用品：日本製のほうが品質が良い 重いものでないし使って帰るので帰りの荷物にもならない/化粧品：高い割に品質は微妙で、ニュージーランド固有のブランド等も特になく、無印良品等海外進出している日本ブランドもニュージーランドには進出していないので日本から持っていくべき
お箸持っていった方がいいかも？フォーク結構食べにくいので。あとは日本食！味噌汁めっちゃ恋しくなります。エコバック喜んでもらえました！
ウェットティッシュ、サングラス、洗濯ネット
ゴミ袋、日本のお菓子(王道なものが喜ばれます！日本のお菓子などはニュージーランドであまり見かけなかったの。)、日傘、雨傘(天気の移り変わりが1日でコロコロ変わるので持ち運べるこの二つが大活躍でした。)
洗濯用ネット、日本のお菓子
扇子、風呂敷、写真、わらび餅を持っていきました。家族写真や地元の広島の写真を楽しそうに見てくれていました。
お土産の一つとして、たけのこの里ときのこの山を持って行ったら、どちらのほうが好きかという話題を作ることができた。また、持って行ったお土産はどれも喜んでもらった。
ハンガー お土産で扇子

日本から持っていく必要のなかったもの	日本から持参すればよかったと思ったもの
ドライヤー 電圧が高すぎてオーバーヒートしました。	特になし
シャンプー・コンディショナー、ボディーソープ：安くて普通の品質のものが	厚手の上着：事前の情報では長袖に薄く羽織れるもの程度でしのげる気

売っているしホームステイ先で用意してくれていることもあるので、持っていなくてよかった。	温とのことだったが、9月10月は最高気温が摂氏一桁の日も多く、真冬のコートをホストファミリーから借りている人もいた。
日用品はほぼいらぬです。向こうで手に入ります！	特になし
ドライヤー	長袖服
洗濯用洗剤(借りられます。)	ボディクリーム(ニュージーランドのほう乾燥している気候でしたので。)
半袖の服	ジップロック、顔のパック
マスク。留学先では、コロナが流行っていなかったため、マスクをつける必要がなかった。	ドライヤー
ドライヤー	傘

4. 留学費用について

お金をどのように準備しましたか。	日本円でいくらぐらい準備しましたか。
基本的にクレジットカードで支払いをしました。現金はバスのカードをチャージする際くらいしか使いませんでした。	クレジットカードは2枚持っていき、上限合計40万 現金は3万円分換金し、若干残りました。
現金、クレジットカード(VISA)、プリペイドカード(キャッシュパスポート)	現金5万円、クレジットカード上限10万円、プリペイドカード15万円
クレカ(VISA、Master Card)、デビットカード、現金	クレカの上限額は20万円、キャッシュでは10万円ほど準備しました
紛失した際に困るのでクレジットカードを二枚持っていきました。現金は5万円分をニュージーランドドルに換えました。	クレジットカード2枚で30万円分、現金5万円分
クレカと現金の両方使いました。VISAのクレジットカードとマスターカードでしたがマスターカードは使えない所が多かったのでVISAカードをお勧めします。クレカ2枚持ちは落とした時のことを考えると怖いですが個人的には良かったと思いました。	現金は3万円ほど。クレカには4.50万入っていましたが30万入ってれば十分3ヶ月楽しめるとおもいます。
デビットカード、現金	デビットカード20万円 現金5万円
主にプリペイドカードを使用していました。時々、クレジットカードと現金で払っていました。	プリペイドカードで12万、クレジットカードで10万円、両替分が6万円で、日本円を2万円準備しました。
現金、クレジットカード	現金3万円分
現金、クレジットカード	クレジットカード30万 現金20万

現地で支払った住居費と食費を教えてください。
住居費はなし 食費は自分が食べたいものを買う際のみ
なし
食費は外食代で5万円ほどです
住居費はゼロ円です。食費は家にあるものを何でも持って行って良かったのでランチはタダでしたしディナーも必ず作ってくれたのでタダでした。
食費5万円
休日に友達と遊んだ際に支払った食費はだいたい50000円
住居費は、留学費用に含まれていた。食費は、友達と食べに行ったときは支払ったが、ホームステイ先での食事は留学費用に含まれていた。

テキスト代と通学費はそれぞれいくらぐらいかかりましたか。

通学費は2万程(現在バスの料金が半額キャンペーン) テキスト代はいらなかったです。ノートを買うくらいでした。

通学費2万円程度

通学費は2万円前後です！学生証を作成したあとは、ブックストアに行って、学生専用のメロカードを作成することをお勧めします。s

テキスト代なし、通学費バス約2万円

テキストにお金は現地で払いませんでした。通学費はバス代月80ドルほどです。

かかっていない

テキスト代 0円 通学費 約11000円

テキスト代はなく、通学費は約1万円かかった。

5. 学習面について

語学力・コミュニケーション能力の自己分析

留学当初に比べ、語彙が口に出るスピードは速くなりました。また、日常会話で使えるスラングなどもいくつか身に付きました。発音の上達は現地の先生に褒めて頂きました。

日本以外からの留学生や知らない英語に触れ、聞き取れない単語の推測力が上がった。自分が不自然な英語を話していることを恥ずかしく思わなくなった。

コミュニケーション能力は格段にアップしました。語学力も、3ヶ月と言う短い期間では、誰よりも格段にアップしたと思っています。

留学に来始めたころと帰国後では、自分の中では英語の力がとても伸びたとは思いません。私はどちらかというと、勉強では吸収したり、理解するのに時間がかかる方です。しかし、英語圏で3ヶ月ほど生活した中で、リスニング力が少し伸びた、相槌を打つことや返事の返し方が自然とできるようになったと実感しています。色々質問されたことに対して Yes/No だけ返すのではなく、もっと具体的に話したり、逆にこちらからも質問をしてみるなど、コミュニケーションを上手に取れるように努力していたので、そこは伸びたと感じています。

ニュージーランド特有の訛りにもだいぶ慣れることができました最後の先生たちとの farewell パーティーでは率先して話すことができ会話と食事を楽しめることができたくらいには語学力が伸びました。リスニング力も速い英語をだいたい理解できるようになったので少し伸びたかなと感じています。

全体的に上がった。特にコミュニケーション能力が上がった。

他国からの留学生や先生と英語で聞いて話すことが日常生活に溶け込んでいったのと、最初のころはすごく集中しながら聞いていたのが日本語で話すときのように力をぬいて聞いたり話することができるようになっていました。記事や文章を読むことも当たり前になっていて、長い文章も長いと思わなくなりました。読むスピード、理解力も早くなったと思います。ただ、ホストファミリーの英語はいつになっても聞き取りづらく、うまく会話をする事ができませんでした。

留学先で、外国人留学生との交流を通して、母国語が英語でない人と英語で会話することの難しさに触れることができた。現地の人や、留学生がよく話してくれたので、自分から会話することも増え、コミュニケーション能力は留学前と比べて上がった。

来たときはほとんど聞き取れず、話せず、話すだけ神経を使ってとても疲れていましたが、帰るときには自分でもわかるほど成長したなと思いました。

留学前の目標とその達成度

意味のある3か月にするという目標の元、自主学習で毎日BBCニュースを読んだり、韓国語の勉強も併せてするなどしました。今振り返ると、悔いはないです。

羞恥心を捨て去る事です。達成できましたが、それに伴ってもっと高い目標ができました。もう一度ニュージーランドに行って、ホストファミリーに挨拶に行くことです。

留学前に目標としていたことは人前でしっかりと意思を示すこと・授業で発言をすることでした。どちらかというとおとなしい性格なので人前に出て発言

することや、主張することは好きではありませんでした。自分の英語力にも自信がなかったのでよほど怖かったです。しかし、ニュージーランドの人たちも大学の授業での空間もみんなとてもやさしく、フレンドリーだったので自分の知っている単語を使って一生懸命相手に伝えようとすることができました。苦手だったプレゼンテーションも緊張しながらも、楽しくできるようになりました。

留学前はリスニング力を上げることと海外の友達を作ること、コミュニケーション能力を上げることだったのですが8割は達成できたのではないかと感じています。

目標は現地の友達を作り、それなりにスムーズに英語でコミュニケーションをとるようになる 達成度 100%

留学前にはもちろん語学の向上も目標としてありましたが、一番は海外への偏見を壊すことでした。小さいころから、海外は治安が悪く危険な場所で、優しい人はあまりいないというイメージを持っていました。だから、海外に行く選択肢が今まで一度もなかったのですが、関西外国語大学に入学したことをきっかけに今まで持っていたイメージを持ったままではよくない、自分で確認しに行きたいと思いました。そのため、目標は偏見を捨てて他国の人と関わったり、たくさんの景色を見ることでした。帰国時、日本に帰りたくないと感じたことに自分でも驚きを感じています。達成できたと思います。

将来就きたい職を見つけることが、留学前の目標だった。就きたい職を見つけることをできなかったが、改めて航空系に興味を持つことができたのと、いつかニュージーランドで生活したいと思うようになった。

目標は話せるようになることでしたが、たまに理解できないことがあるので達成できていません。達成度的には70%くらいです。

留学を通しての成長ポイント

継続力を更に伸ばすことができました。10月後半から毎日ジムに通うなど決め、授業最終日まで続けました。また、失敗を恐れず何事にもチャレンジしてみる、恥を捨てる力を培いました。

留学を通して、自分で日常生活を生き抜く力、周りに依存せず独立する力が身につきました。わからないことがあればそれを隠そうとするのが以前に自分でしたが、失敗を恐れず自信を持って立ち向かうことで、いち早く答えをみつけることができ、ストレスなくこの3ヶ月を過ごすことができました。

多くの文化や考え方を幅広く受け入れられるようになったと感じます。ニュージーランドにはニュージーランド人はもちろん、マオリの人たちやアジア人、アフリカ人、中東の人たちなど多くの人種の人たちが住んでいます。だからこそ、より日本よりも多種多様な文化や考え方を持っていて、それをみんなが認め合い、尊重して生活していました。私も日本での生活と違って、驚いたり戸惑うこともありましたが、現地での生活スタイルを知ることができ、経験できたことは、私の中で大きな勉強でした。

忍耐力が身についたと感じています。一度持っていた英語力の自信を壊されてからは努力に努力を重ね、先生たちとのコミュニケーションをとったりすることでまたゼロから学ぶ姿勢を立て直すことができました。また会話のタネがなくなる場面が多いことに気付いてからはタイ人のコミュニケーション能力の高い友達を見習い、なんでも心を開いて話すよう意識できるようになりました。英語が話せなくて見下された経験もありましたがグッと忍耐しその悔しさをバネに学びを深めることができたと思います。

自分の意見を主張する力、コミュニケーションを円滑に取る力

怖いものや事に向き合う強さが身についたと思います。ホストファミリーや友達だけではなく、知らない人や、店員さんにも自分から話しかけることができるようになっていました。また、一人でどこか出かけるのも怖かったのですが、一人で行動することもできるようになっていました。学習面では、授業では全体的に自分の意見を書いたり話す場面が多く、最初のころは戸惑っていましたがだんだん自分の意見をしっかり持って説明することに積極性を持てるようになっていきました。

留学を通して、なんにでもとりあえず取り組んでみようという姿勢が身についた。

コミュニケーションスキルが身に付きました。英語関係なく人前ではっきりと自分と意見を言えるようになりました。

留学前/留学中/留学後の語学学習に対するモチベーションの変化

モチベーションは常に高かったです。自分に負けるのが嫌なので一度やると決めたことは続けました。

留学前、コロナによって大学での出会いも全くなく、英語に対するモチベーションはほとんどありませんでした。さまざまな不安を抱えながらの留学でしたが、ただ一つ、恐れず立ち向かうことを目標に過ごしたことで、留学後もモチベーションが上がり続けています。

留学に行ったことで、もっと英語を流暢に話せるようになりたい、もっと多くの人とコミュニケーションを取れるようになりたいと感じました。留学前までは、英語を受け身の形で勉強することが多かったですが、留学に来てからは、自分で積極的にフレーズを調べたり、英語で書かれた本を読むようになりました。帰国後一日に長文読解を二つ読むことと、単語帳の単語を二ページ分覚えるということを毎日するようにしています。

やはり自分は英語が話せるステータスに憧れがあり、国が異なるひとたちと英語ひとつでここまで絆を深めることができる素晴らしさを経験しモチベーションアップしました。

留学中は留学前よりもモチベーションはかなり高かったと思います。ただ、途中で英語が嫌だと感じていた日もありました。留学後は変わらずモチベーションが高いままです。

留学前は、アカデミックスキルについて知らなかったが、留学先大学で知ることができ、このスキルを忘れないように、語学学習により一層力を入れて取り組もうと思う。

留学前は期待であふれていましたがいざつくと英語力の低さに失望してモチベーションが下がりました。それが糧になり自主勉強の時間が増え、今は英語に対してすごくモチベーションがあります。

留学中 100%力を振り絞った瞬間

テストです。毎週テストがあり、reading テストに関してはとても時間内に解き切るのが難しかったですが、諦めず全力を出し、毎回 pass することができました。

恐れずに話すことです。話すことで伝えたいことがまっすぐに伝わります。恐れているその時間をもったいないと思うことです。拙い英語を恥じることはありません。文法を気にせず、単語を並べて話してみてください。私はそこに 100%の力を振り絞りました

ひとつ大きなプレゼンテーションを行う機会があったのですがその際は、猛練習しました。自分の英語がみんなに伝わるのかという心配もありましたが、それよりも人前で発表をするという経験があまりなかったので、それにとっても緊張しました。本番では、実際にみんなにしっかり伝わったのかはわかりませんが、英語の発音をはっきりと、また大きな声で笑顔で話す、聞いている人の関心を引くような話し方をするように心がけていました。

ホストファミリーと会話をした瞬間です。過ごす時間が短かったので仲良くなるのに苦労しました。最初の頃は思っていた生活ではなかったので、会話も一往復で終わってしまうような関係でしたが、自分から仲良くなろうと努力した瞬間からはその気持ちを汲み取りホストファミリーも歩み寄ってくれたので最後にはジョークを言い合うような関係になれました。

留学期間の最終課題 大学のジムでベンチプレスの重さマックスに挑戦した時

テストです。リーディングとライティングのテストがありました。難しかったですが、自分の力試しにもなったし、クラス替えにかかわっていたので、集中して頑張りました。

どの瞬間にも力を振り絞ったが、特に力を入れていたことは、一か月かけて作成するレポートだ。

最後のプレゼンテーションです。留学の集大成として今自分のできる最大限の発表ができたかと思います。

留学先大学の良かった点

ジムが無料だったこと

相談に幅広く応じていただいた。

先生方がすごく優しく面白い方ばかりで、楽しく前向きに授業を頑張ることができました。また、大学内にあったジムがすごく充実していたのもすごくうれしかったです。

リンカーン大学はとても学生数が少ないです。その分、面積は大きいので広々としています。アットホームな空間で過ごしやすかったです。

自然豊か、人が優しい

ジムが無料で使えるところ 先生のやる気が凄いところ

教員が皆さん優しくなんでも相談に乗ってくれるので親しみやすかったことです。

ジムや施設が無料で使えること。コロナ禍ということもあるが、少人数で授業を受けていたため、先生が一人一人に寄り添ってくれたこと。